#25

イチヨウラン

Dactylostalix ringens

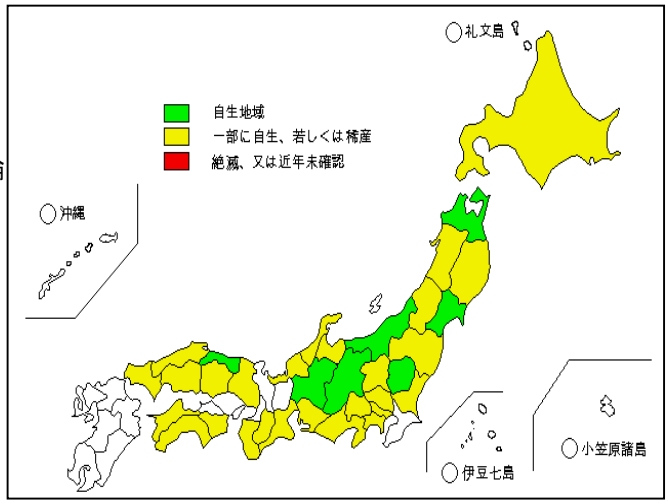
イチヨウラン（愛知県10.4/29）

北海道から本州、四国に自生する小型の地生蘭です。中部地方以南では500m～1500m程度の亜高山帯の針葉樹林下に見られ、薄暗く苔むした湿度の高い環境を好みます。

特徴的なやや硬質の一枚葉を展開し、4～7月頃（地域と標高によってばらつきがあります）に10cmほどの花茎に1輪の黄緑色の花を咲かせます。

亜高山帯では比較的良く目にすることのできる蘭で、5cm程度のたった1枚の葉を1年に1枚展開し、秋に翌年度の為の新しい葉を形成し、雪の下で大切に葉を守り春を待ちます。

林道沿いや木漏れ日の差し込むようなやや明るい苔むした樹林下に数芽単位で点在し自生します。



全国の冷涼な山地に自生します。

イチヨウラン（愛知県10.6/7）

亜高山性のため盗掘による減少は他の蘭に比べればややましなほうですが、大きくシャープで明るい黄緑色の花は非常に美しく、人目に付きやすいことからも登山者や趣味家、金銭目的の業者による盗掘はあとを絶ちません。また人間の生活圏の拡大により亜高山帯や北国までダムや道路など開発の手が及んでおり、自生域は減少の一途をたどっています。

株繁殖はせず、実生による増殖に頼っているようなので、自生地でも個体数減少は即結実率の悪さにつながり、成長も遅いため一度ダメージを受けた自生地の回復には極めて時間が掛かります。

Document and photo by LittleFlower 2010

商用生産はされていない為入手は不可能です。にもかかわらず大変観賞価値の高い蘭なのでしばしば野草店や通信販売、まれにホームセンターにまで出回っています。
　これらはほぼ100%盗掘株なので、モラルのある業者はまず扱いませんし、栽培も低地では困難を極めますので絶対に購入しないで下さい。枯らしてしまう罪の意識や更なる盗掘の原因を作ってしまうという負の連鎖を生み出してしまいます。
　人為的な増殖についても現状成功例は聞きません。個人レベルでの安易な栽培（増殖目的の無謀な挑戦も含みます）は絶対にお控え下さい。環境保護の立場からも専門機関による栽培・増殖方法の確立を期待する蘭のひとつです。

イチヨウラン（愛知県10.4/29）

イチヨウランの芽吹き（愛知県10.9/21）

イチヨウラン（愛知県10.4/29）

イチヨウラン（愛知県10.4/29）

イチヨウラン（愛知県10.4/29）

Document and photo by LittleFlower 2010